

今年も多くの鉄道会社において新型車両が走り始めました。単に老朽化した車両の置き換えというだけでなく、液晶モニターによる情報提供や車椅子やベビーカー向けのスペースの設置など時代に応じたさまざまな工夫が盛り込まれています。さらにクルーズトレインと呼ばれる豪華な観光列車や全席指定の通勤列車など新たなコンセプトの車両も投入されました。私自身は徒歩通勤なので、鉄道を利用する機会は少ないですが、鉄道に対する世間のイメージも変化しているように感じます。

さて、今月号は「鉄道の振動技術」と題して、鉄道の車両や

構造物、さらには沿線で発生する振動の予測手法や、振動や音による異常検知手法について紹介しました。列車が走行するかぎり振動・騒音は発生するものです。鉄道総研では引き続き、社会の要望に応える研究開発を進めていきます。

来月号の特集は「鉄道メンテナンスの効率化」です。コンクリート電柱や潤滑グリースの劣化診断技術や無線センサーネットワークを用いた状態監視技術など、鉄道メンテナンスに関わる取り組みについて紹介します。どうぞご期待ください。(J.N.)